

1月29日 園内研修での話し合い

年中4歳児 くま組

「僕も私もやりたい！！④ 一歩前へ・・・」



「〇ちゃん一緒にチューブそりに乗ろう！」友達に誘ってもらい、嬉しくて思わずジャンプ！（対話的・深い学び）



「△ちゃんが羽子板をしてる…。一緒にやりたいな…。（心の声）」気になる友達に見える場所から、視線を送ってみる。（主体的）

<教師のねがい>

- ・ 教師から誘われるのではなく、自ら遊びや友達に関わってほしい。
- ・ 自分から話し掛けられなくても、遊びたいことを周りに気付いてもらえる関わりをしてほしい。

遊びの経過・どのような姿が、どのようにになって、一歩踏み出したと感じたか？

友達との繋がりができ、教師の助けがなくても、友達同士で誘い合いながら遊ぶ姿が増えてきた年中組の子どもたちであるが、中には、教師の誘い掛けがあってから遊びに繋がっていく幼児もあり、今年度は、そのような幼児にスポットを当てて取り上げ、研究を進めてきた。

年度当初からの経過の中で、友達との遊びの楽しさを感じるようになり、気になる友達もできてきたところである。以前は遠くから友達の様子を見て、声には出さないが、教師に目で“誘ってくれても大丈夫だよ。”とアピールをし、教師の誘い掛けで仲間になることが多かった。しかし、実は友達が何をしているかのアンテナもよく張っており、自分から楽しそうな遊びの近くにいる場面も増えてきている。最近は自分から友達の視界に入るように近くに寄って行き、友達に話し掛けられると、小さくジャンプをしたり、スキップをしたりして体で嬉しい思いを表現するようになるなど行動の変容が見られるようになってきた。

<見取った幼児の姿>

主体的

- ・興味をもった遊びに、自分から近付くだけでなく、友達の視界に入るように動く。
- ・体で思いを表現する。 ・友達の会話を聞き、同調しながら行動する。
- ・友達に伝わらなくても、自分なりに声を出して思いを出す。

→そのために必要な、有効な援助

- ・教師が誘うのではなく、周りの友達に気付いてもらい、誘ってもらえるように働き掛ける。
- ・遊びの中で、〇君がいることで楽しくなることや、△ちゃんの素敵な姿を伝えるなど、それぞれの幼児のよさを友達に意識してもらえるようにする。

対話的

- ・友達に話し掛けられたときに、言葉や動きで答える。
- ・友達の呟きや言葉に行動で応える。

→そのために必要な、有効な援助

- ・〇君、△ちゃんの素敵な行動、友達のことを考えて行動している姿を褒め、周りの友達にも知らせる。
- ・言葉を聞き逃さず、共感する。また、〇君、△ちゃんの思いを周りに知らせる。

次へのステップ 遊びや経験が次へつながり、深まるための構想は？

- ・ ○君、△ちゃんのよさに、周りの友達が気付けるように働き掛け、得意なことで認められるようにすること。
- ・ 教師が直接的に関わり過ぎず、自分の力で発信しようとしている時には、視界に入らないようにしたり見守ったりして、周りの友達が気付くように支える。
- ・ 気の合う 2～3 人の友達との関わりの積み重ね。 ・ 思いを言葉で表す経験の積み重ね。

話合いから

●この事例で深く学んでいると感じたところは？

- ・ 友達の働き掛けに自分なりに言葉や行動で答えていること。
- ・ 主体的に友達に気付いてもらえるように動いている姿。
- ・ 教師が繰り返し仲立ちをしてきたことで、周りの友達にもそれぞれの幼児のよさが伝わってきたし、それぞれの幼児にとっても、安心して思いを表せる相手ができってきたこと。
- ・ 1人での姿よりも、気の合う友達と楽しそうに走ったりスキップしたりして遊んでいる姿が多く目に付くようになったこと。
- ・ 友達と遊ぶのが楽しいと分かったこと。楽しいことを自分で探して、いろいろな遊びに関わろうとしているところ。

●この経験を次にどのような経験につなげていくか？

- ・ 苦手な面だけに着目するのではなく、得意なところで認められるようにすること。運動遊びが得意な幼児は、年長になったらリレーやドッジボールなどで認められ、誘われることが増えそう。
- ・ 気になる友達数人で遊ぶ。気の合う友達同士での簡単な言葉のやり取り。
- ・ 周りの友達への自分からのアプローチ。